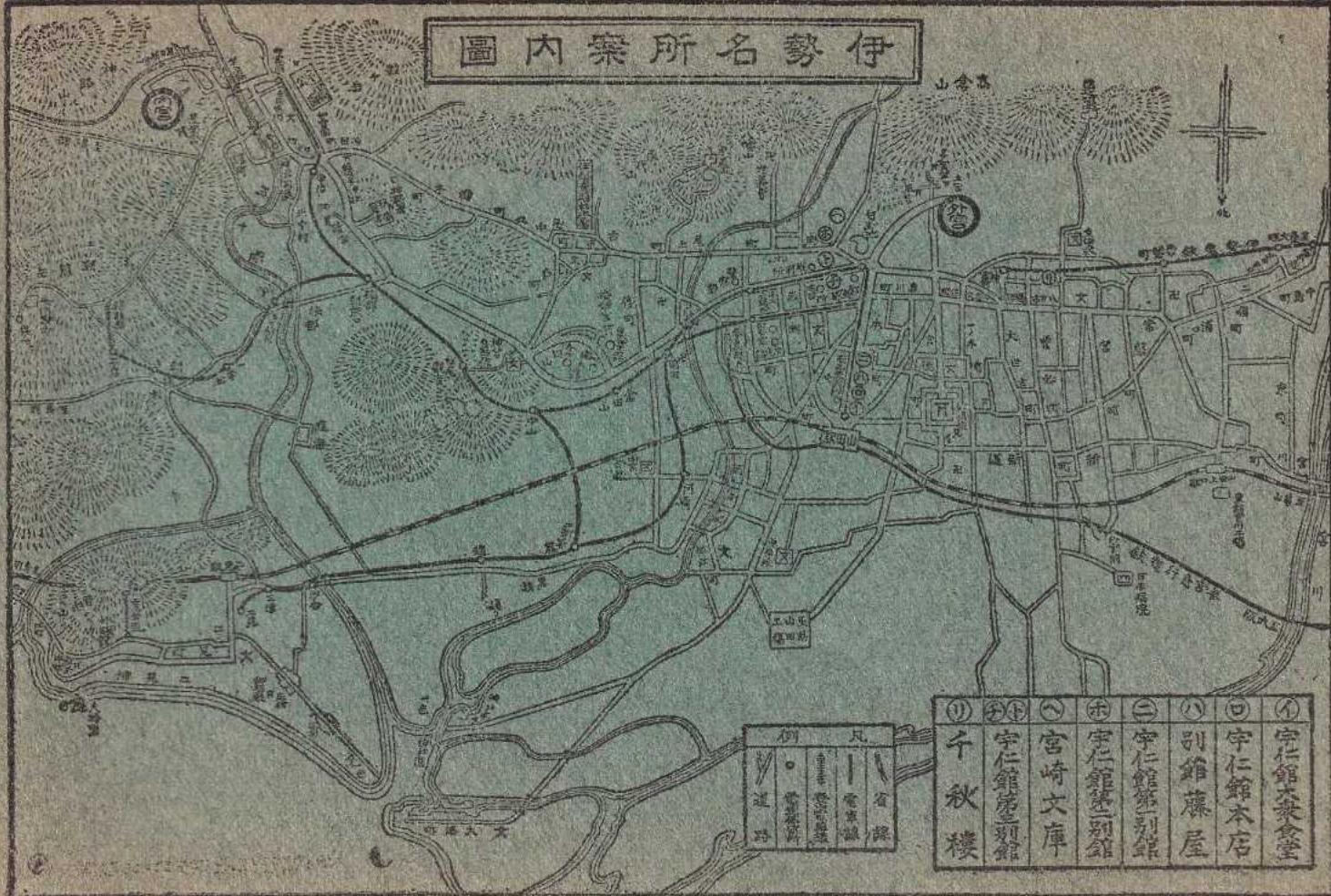


參宮案內



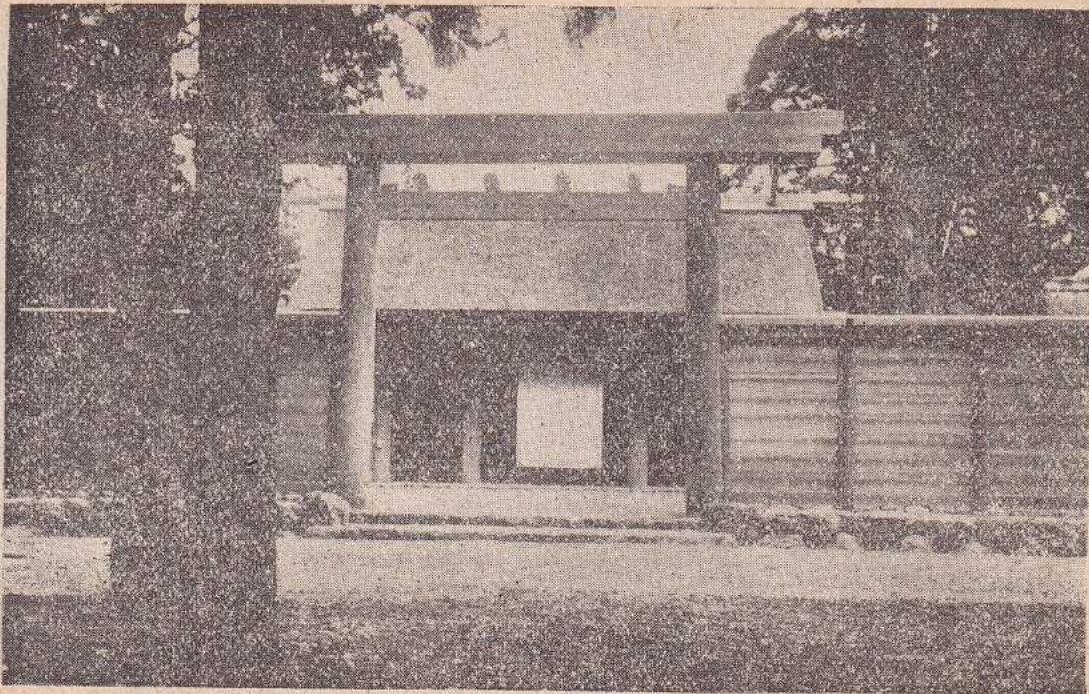
伊勢名所案内圖



例
凡
道
路
電
車
鐵
路
省
縣



皇 神 大 宮



豐受大神宮

參 宮 案 內

第一 概 説

神宮に奉賽することは遠い遠い祖先から傳へ來つた國民思想の精華で世界無比の美風である、古來神宮に參拜することを「伊勢參宮」と稱して如何なる遠國に在りても非常な辛勞を重ねて伊勢參宮をなし一代に一度、皇大神宮の大御前を拜して報本反始の至誠を捧げることを無上の幸福としたものである、殊に交通機關の整備したる今日に在りては全國津々浦々殖民地は云ふに及ばず、海外諸國からでも容易に參宮の旅路に上りて親しく奉賽し得るやうになつたので、參拜者は著るしく増加して一ヶ年四百萬人を算し猶今後年と共に増加の趨勢を示してゐる、扱て茲には伊勢參宮をせらるゝ人々のために神宮の御事を始め參宮の順路、主なる名勝、舊蹟等を略叙して参考に供する。

第二 神 宮

神宮とは、皇大神宮、豊受大神宮の御總稱で、皇大神宮は内宮豊受大神宮を外宮とも申し奉る。天照皇大神は我が皇室の大御祖に坐まし。豊受大神は皇大御神の篤く御尊崇遊ばした神様で我が國民生活の資料である衣食住の根源を主宰し給ふ大神に坐まし、皇室に於かせられても篤く御尊崇あらせらるゝ神様である、我が皇室の大御祖は皇孫瓊々杵尊が御降臨の際、神勅によ

つて宮中に奉祀せられてゐたが、崇神天皇の御宇、別殿に奉祀せられ大和の笠縫邑に奉齋せられたが、其の後、倭姫命勅命を奉じ大宮地を求めて各所を御遷幸遊ばされた末、垂仁天皇の廿六年に至り現今の大宮地、五十鈴の川上に御鎮座あらせられ今日まで千九百三十餘年を閱したのであるそれより四百八十二年を経て、雄略天皇の二十二年に、神勅により豊受大神を丹波より御迎へ申して、伊勢の山田の原に奉遷せられたのである。そうして皇大神宮には荒祭宮以下十ヶ所の別宮、豊受大神宮には多賀宮以下四ヶ所の別宮があり、内外兩宮ともに數多くの攝社末社所管社がある、内外兩宮の宮殿は神明造りと申して白木の清々しき崇高なる御構造であるが、内外兩宮の御構造の異なる點は

一、東寶殿、西寶殿の位置が内宮は正殿の後方に、外宮は前方にある。

二、御饌殿は外宮のみにありて内宮には無い。

三、千木の切り方は内宮は上部が水平に、外宮は上部が垂直になつてゐる、古歌に

片そきの千木は内外にかはれども

誓はおなじ伊勢の神垣

度會朝棟

四、鰹木は内宮は正殿十本、御門六本、別宮は六本であるが外宮は正殿が九本、御門五本、別宮は五本である。

第三 別 宮

皇大神宮別宮十ヶ所

荒 祭 宮	(域内)	月 讀 宮	(度會郡四郷村)
月讀荒御魂宮	(度會郡四郷村)	伊佐奈岐宮	(度會郡四郷村)
伊佐奈彌宮	(度會郡四郷村)	瀧原宮	(度會郡瀧原村)
瀧原並宮	(度會郡瀧原村)	伊 雜 宮	(志摩郡磯部村)
風日祈宮	(域内)	倭 姫 宮	(倉田山)

豊受大神宮別宮四ヶ所

多 賀 宮	(域内)	土 宮	(域内右)
月夜見宮	(宇治山田市宮後町)	風 宮	(域内左)

第四遷 宮

上古は兩宮とも宮殿・御門・御垣等破損の時を俟ち宮司に於て修補し奉る例であつたが、天武天皇の時御遷宮は、二十年に一度と定められ、内宮遷宮の後一年を隔て、外宮の遷宮を行はれる例であつた。其の後、天下兵亂の爲、假殿遷宮のみで、正遷宮の中絶せること百二三十年に及んだが、天正十三年(紀元二二四五)に正遷宮を行はれ、以後二十一年に一度となつた。

昭和四年十月(内宮二日)の正遷宮は第五十八回目である

又神宮御用材は、古來大杉山より採つたが、寶永年代から、大杉山と木曾山と隔番に採り、寛政の頃から、木曾山のみとなつた。この御用材は、一旦大湊に集め、外宮用は、宮川に上せ、内宮用は、五十鈴川に上せ、宇治山田市及び元神領の住民、其の筋の許可を得て奉曳す。これを御木曳といふ。又御白石を獻納する嘉例があつて、皆揃衣の扮装をなし、謳歌の聲勇ましく

非常の盛況である。

○木揚歌

一、ホンエー神の惠で、ヨーイヤヨー、さりとては人氣が揃うて一
時に木が浮くヨーイトセー

○道歌

- 一、御木は木曾山谷々越えて清き流れの宮川へ。
- 二、高き稜の高倉山の綠いやます千代の色。
- 三、神の御代より五十鈴の川の流れ盡きせぬ御蔭かな。
- 四、清き白石山程積んで真心捧ぐる宮の内。
- 五、曳けや曳け／＼曳く手もあまた、勇む心の一筋に。

第五 一般參宮者心得

神宮宮域内では、昔から不淨を忌むことが最も嚴重であるから忌服、月經、病傷等の穢ある者は、各自相戒めて參入しないやうに、又宮域内では専ら謹慎靜肅を旨とし、満身の誠意を捧げて參拜すべきである、參宮者の禁條として示されてゐるのは。

- 一、敬意を缺ける扮裝をなしたるもの。
 - 二、喫煙したり又は痰、唾を吐くこと。
 - 三、域内の靜肅を紊す行爲。
 - 四、寫眞機を携帶し、且つ域内は撮影されない。
但し神苑地内の撮影は、神宮警衛部に申出で許可を得れば差支ない。
- また拜所に於ては左記の條々は禁じられてゐる。
- 一、帽子、外套、襟巻等を着くること。

二、着物の裾を折上げ或はドテラ(丹前)等を着すること。
三、手荷物又は開きたる旗を持ち、其の其他他人に妨げをなす如き物品を携帶すること。

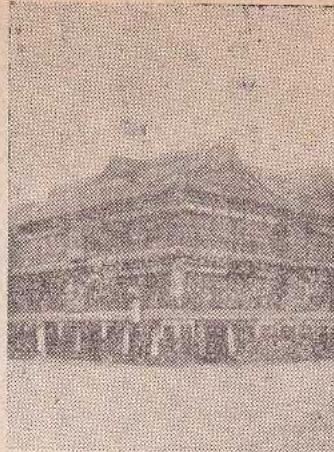
なほ有資格者で正式参拜の希望者は豫め神宮司廳若くば直接兩宮南宿衛屋に其旨を申出づれば夫々その資格に應じて所定の位置で参拜することが出来る。

第六奉 賽

臣民の奉賽に關する事務は、神宮神部署の所管に屬し、神樂の奉奏、御饌の奉奠、金品の獻納、大麻、曆の授與等は、兩宮とも、神樂殿に於て取扱はれる。奉賽者は、直接神樂殿の受附に申出るか、又は通信で、其の願意種別等を申出ることが出来るが各自が宿泊した神都市内の旅館をして取次がしむるのが便利である、御神樂の奉奏時間は毎日午前八時より午後四時まで（一月、十二月は午前九時より）願人の到着順により順々に奉奏される、御神樂の種別並に御初穂料は左の通り。

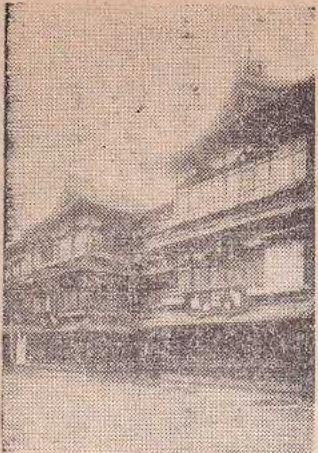
初穂料	七拾五圓以上	登殿人員	内宮神樂殿五百人以内
大々御神樂	全	五拾圓以上	外宮神樂殿百五十人以内
大御神樂	全	拾五圓以上	内宮神樂殿三十五人以内
御神樂	全	七圓以上	外宮神樂殿五十人以内
大御饌	全	初穂料五圓以上	登殿人員百五十人以内
御饌	全	貳圓以上	内宮神樂殿二百人以内
御饌	全	圓以上	外宮神樂殿五十人以内
御饌	全	五人以内	登殿人員十人以内

宇仁館は



驛前別館藤屋は

◇(彌次喜多樓)の菊桐の間は元勅使齋館といふ歴史ある客室で高雅な部屋です是非御試宿をお願ひします。



参宮日記

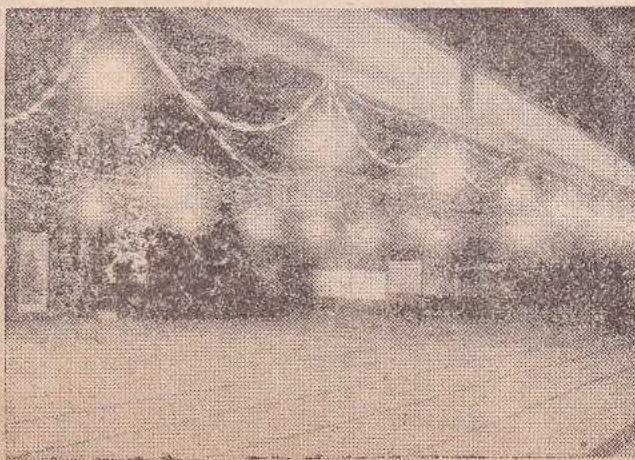
参宮日記

宇仁館大衆食堂は

山田驛頭にあつて三百名のテーブルが完備して、至極御輕便に和洋食の御召が出來其上御休憩御入浴等皆様の御便利な様設備されて居ます山田驛前御降車の節は先づ宇仁館大衆食堂へ!!

別館千秋樓は

外宮様のすぐ西に位し御宿泊御宴会に尤も適し、五百名様迄は一室にて御宴會を引受け又縣下唯一の大庭園は園遊會用として毎々御用命を蒙ります。



第七 參宮の順路

參宮日記

8

恒例の神宮諸祭典は、まづ外宮に、次で内宮に執り行はれる、伊勢参宮をするにも亦まづ外宮を先に、次に内宮に参拜するのが古來の慣例である。それで此の順路も先づ外宮を先にする。

山田驛 神の都宇治山田市の立關口で、省線鉄道よりする一般の参宮旅客は爰に下車する、参宮急行電鐵よりする旅客も爰で下車するのが宜い、同電鐵の宇治山田驛まで乗る時は外宮へ参拜するには十數丁の間、後もござをせねばならぬ、山田驛は毎年數百萬人の旅客の旅客が乗降する大驛で此處より外宮へは僅かに二三丁、大厦高樓軒を並べて、宇仁館、藤屋(彌次喜多樓)等の大旅館の間に十數軒の大

旅館、諸種の土産物店が介在してゐる殷盛な大通りである、驛の直前には一時に三四百人を容る、モダンな設備の行届いた宇仁館大衆食堂がある。

合 同 電 車

山田驛前から外宮前、行幸通りを通過して内宮に行くものと、外宮前から直行して二見浦に通ずるものとあり又内宮前から、二見浦に直行するのもある、朝熊岳に登るには内宮行の電車に乗り途中楠部停留所(朝熊口)で朝熊行に乗替へ、平坦線を行くこと十數分、平岩驛からケイブルに乗り換へて山頂に達する。

伊 勢 電 鐵

の神都終点驛は大神宮前といひ、外宮の西方にある、この電車は現在山田、桑名、大垣間を運轉しているが、近く名古屋、山田間を連絡運轉する筈である、この驛の直ぐ西方に三百疊敷の大廣間を有する神都唯一の大料理店兼旅館千秋樓がある。

參宮急行電鐵

大阪山田間を連絡してゐる電車で山田市内に入つてから外宮前、山田驛、終点宇治山田驛の三驛があるが伊勢參宮には山田驛で下車すれば、外宮までは僅かに二三丁で一番便利である。

外 宮

山田驛の正面、大通り二丁餘にして外宮神苑に達す、苑内には諸種の樹石を配置して千古の風致を添へ大正天皇御手植の松、其の他征清、征露の鹵獲記念砲、大錙

等あり、南隅の勾玉池には、夥多の水禽何の恐れ氣もなく恣に游泳せるさま、いと神々し、神苑を入つて表參道を進み、第一鳥居口の御橋を渡ると、右に清盛楠、其の奥に齋館、左には手洗場があり、此處で手を洗ひ口を嗽ぎ、一の鳥居を入り行在所の御門を右に見て、二の鳥居を過ぐれば、右に神樂殿及び大麻授與所あり、廣場には五丈殿、九丈殿がある、それより更に進んで、御本宮の前に到り、外玉垣南御門前に於て拜するのである、次で別宮多賀宮、風宮、土宮を拜して、元の道を歸り、神苑を經て行幸通りに出る、この街角には山田郵便局があり、道路を隔て、外宮前電車停留所があるこ、が行幸通の起点で、停留所の後ろを東へ行く道は舊參宮街道で伊勢音頭で名高い古市を経て、内宮に通ずる

豊宮崎文庫舊蹟

舊參宮街道を神苑に添ふて行けば神苑の盡くる所に宇治山田憲兵分遣所、その前に旅館宇仁館その南高倉山の麓に沿ひて豊宮崎文庫の舊蹟がある、この文庫は慶安元年外宮の神官出口延佳等が同志を募つて建設したもので古來日本三大文庫の一つと稱された有名なものである、今この舊蹟は宇仁館西田家の別邸となり大正十二年一月史蹟に指定されてゐる、その藏書は總て神宮文庫に所藏されて居り、域内には櫻樹多く、お屋根櫻と稱する珍らしい品種の花をつけるので有名である、陽春觀櫻の群れてよく賑はふ。

伊勢音頭

豊宮崎文庫舊蹟のある岡本町から小田の橋

尾上町を経て古市に通ずる坂道は、お杉お玉で有名な間の山で、此處から直ぐ古市である、今から三百餘年前、慶長元和のころ路傍に竹格子の家を設け、茶汲み女を置いて往來の參宮旅客を接待したのが始めて、今は立派な遊廓となつた、伊勢參宮旅客の間に喧傳せらる、伊勢音頭は、王朝時代の歌垣の名残りを留めたもので、寛延年代から盛んに行はれて今日に及んでゐる、明治維新前までは立派な舞臺を構へた數軒の大籬があつて賑やかに行はれたものである、菊壽樓（杉本屋）では今なほ往昔の手振りを其まゝ、古典味豊かな大舞臺で伊勢音頭が演ぜられてゐる。

倉田山 内宮行き電車の倉田山停留所から一丁足らずで、倉田山公園に達する、この公園の面積は三萬餘坪で、自然の勝地に加ふるに和洋の造園式を以てし規模宏大、風致絶佳、他の都市にも其比を見ずといはれてゐる

徵古館、農業館

何れも倉田山公園内に在つて、徵古館は神宮の御寶物を始め、上古以來各時代の遺物、服飾、器具、古書畫等歴史上参考の資料を陳列し、農業館は、農林、水産、牧畜、養蠶、工藝に關する凡ゆる器具、標本等を蒐集陳列して一般公衆の縱覽を許してゐる。

倭姫宮

農業館の南にある、倭姫命は女性の御身を以て神勅のまにく神宮を奉戴せられて御鎮座の靈地を求め

ること廿餘年、非常な辛酸を嘗め給ふた末遂に五十鈴の川上に内宮の大宮地を御選定遊ばされた功神で大正十二年御鎮座祭を行はれ、内宮の別宮として奉祀されたのである。

神宮皇學館

倉田山東方の丘上に在る。神宮文庫と相隣りす明治十五年四月朝彦親王の令旨に依つて創立せられ、もと宇治に在つたが、大正八年十月此の地に移轉改築した。本館は内務省直轄の専門學校て、神宮司廳の經營に屬し、主として我が國の道義・文學・歴史等を深く專攻せしめ、神官神職並に教育者たる人物を養成する學校である。

神宮文庫

徵古館と行幸通を隔て、東方の丘上にある藏書十萬冊に達し、古書珍籍渺からず、特色ある圖書館として學者間に有名である。

月讀宮

楠部電車停留所の南、約三丁の所にある、皇大神宮の別宮で、月讀尊を奉祀す、尊は天照皇大神の御弟神に坐まし域内には月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮伊佐奈彌宮の各別宮も御鎮座あらせられる。

伊勢離宮

月讀宮から行幸通を距て、西に御用地をトせられ昭和三年七月一日地均工事に着手せられ、青年會員・在郷軍人等、日數九十五日延人員一萬餘人勞役奉仕をなす。清淨無垢の聖地として誠に結構に拜せらる。

猿田彦神社

浦田坂を下つて左側に在る。宇治土公家の

遠祖で、猿田彦大神の裔孫、太田命から系統連綿、今に至るといふ。地祭、方除の祈禱を行はれ、又清砂を授與せらる。

神宮司廳 浦田町に在る。同廳は、明治四年に從來の制度を改めて、始めて置かれたので、今の廳舎は、明治三十六年一月の建築で、屢々行在所に供せられた所である。

宇治橋公園

行幸通りの終点、内宮前電車停留所を前に宇治橋と隣接して風光明媚、眺望絶佳の高丘に地を相して經營されたもので、園内には二千餘坪の大運動遊技場の外、一時に優に二三千人を容る、無料休憩所、手荷物預り所あり一般參宮旅客のために開放して、伊勢參宮旅客を優待し、參宮館は神宮の御事蹟及歴史上の重大史實を自動裝置の精巧なパノラマに飾りつけて觀覽せしめる一面、三百餘坪の日本風二階建の宏壯なる對泉閣は園内事務所へ申込めば何時にも使用し得られる。

五十鈴川

又御裳濯川といふ。水源二つあり、一は神路山から發し、一は島路山、逢坂山から出で、落合河原で合し、宇治橋を潛り、四郷村を經二見町を包擁して、伊勢海に注ぐ、長さ四里三十町上流に鮑石・鏡石・大瀧・小瀧等勝地が少くない夏は河鹿の聲、鈴を振るやうである。

五十鈴川頼む心し深ければ

天照る神ぞ空にしるらむ

後鳥羽院

神路山

内宮御山の總稱である。東北は朝熊山に連り、西は鷲嶺・前山に接し、南は志摩の境に至る。高さ千三百三十七尺、周圍七里餘。其の他、附近の山林五十餘萬歩を購ひ御料林とせられて風致を添え、猶檜苗等を試植せらる。

我が頼む神路の山の松の風

幾代の春も色はかはらじ

後鳥羽院

宇治橋 五十鈴川に架けられた總檜造りの神橋で、長さ五十一間、幅は高欄廿尺五寸、葱花形の擬寶珠十六個、兩側の鳥居は眞々十八尺、柱の太さ二尺二寸で昭和四年九月廿二日に盛大、壯麗な第廿六回目の渡始め式が行はれた、この神橋は神宮式年御造營毎に架けられるのである。

内宮

宇治橋を渡り内宮神苑を過ぎ、第一鳥居口御橋を渡れば、右に手洗場、左に齋館を見て、第一鳥居、行在所門前より、第二鳥居を過ぐれば、右に風宮橋があり、左に大麻授與所及び神樂殿がある、更に進んで五丈殿、由貴御倉忌火屋殿、御稻御倉を左に見て、御正殿前の石段を登り、外玉垣御門前にて恭しく拜を遂げる、歸途は大麻授與所の左側より裏参道を、神苑に出づるのである。

ものいはゞ神路の山の神杉に

過ぎし神代のことを問はまし

宣長

さやかなる月日のかけにあたりても

天照る神をたのもばかりぞ

定家

第八 市外案内

朝熊岳

度會・志摩兩郡に跨り、海拔千八百尺宇治及び楠部より七十二町、朝熊村よりは三十二町。登山電車では、平坦部二哩六十鎖、ケイブル線五十三鎖、世界第二、東洋第一の最急勾配と稱せらる。開通大正十四年八月にかかる眺望の絶佳なること言語文章に盡されず。恰も地圖の模型を觀る心地す。山頂の金剛證寺は、欽明帝の頃、曉臺の開いた所で、弘法大師之を中興して、虛空藏菩薩を安置し、鎌倉時代東岳和尙臨濟宗に改む。慶長十四年池田輝政之を再建し其の後數回火災に罹つたが本堂は昔の儘である。奥之院は吞庵といひ、その側に富士見臺がある。

海を呑む茶の子の餅や不二の山

一休

神垣や思ひもかけずれはん像

芭蕉

二見浦

二見町一帶の海濱で、白砂青松伊勢海を隔てゝ、遙に三尾の岬角を望み、有名の勝地である。皇大神御遷幸の御時、大湊から此の浦を御通過あらせられ、立石崎の東から五十鈴川を泝らせ給ひし靈跡で、夫婦岩の勝景、日の出の壯觀富嶽の遠望海水浴等で來遊するものが多い。明治二十年英照皇太后、及び有栖川宮を賓日館に奉迎し、同二十四年大正天皇東宮に坐し、御時、三旬の御避暑を遊されたことがある。近時旅客の輻輳は、非常に夥しい。

ます鏡二見の浦にみがかれて

神風清き夏の夜の月

定 家

鳥 羽 町

參宮線の終点で、二見鳥羽間の線路は短距離であるが、鐵橋あり、隧道あり、山を送つては、海を迎えるやうである。鳥羽は稻垣氏の舊城下で、日和山・樋の山・廣樂園・常安寺等の名勝地がある。昭和四年志摩電鐵の開通があつて、交通上一層便利となつた。

鳥羽港は、伊勢灣の門口に當り、三河の伊良湖岬と相對し、桃取・菅島・坂手の諸島、前面を擁し、風波安全の要港である。高きに登つて港灣を俯瞰すれば、海岸の屈曲、風光の明媚、去るに忍びぬ風致である。

明治天皇御製

浦風も荒磯浪もけさなぎて

かもめ立ちたつ鳥羽の海面

參 宮 案 內 終

神宮參拜順路及所要時間(一日の行程)表

			所要時間	參 拜 順 路 其 の 他
宇治橋公園 參宮館觀覽	倭姬宮參拜	月讀宮參拜	山田驛(省線)より外宮まで	神宮に參拜するには外宮を先にするが便利です 山田驛(省線)より眞直に南へ大通を約三町で外宮神苑に達します。
三十分	十五分	十五分	宇治山田驛(參急電車)より外宮迄	宇治山田驛(參急電車)より左に折れて大通に出で外宮神苑に達します。 行程約八町。
			大神宮前驛(伊勢電鐵)より外宮迄	大神宮前驛(伊勢電鐵)より約一町で外宮神苑に達します。
			外宮前より	外宮前より内宮行電車に乗り内宮前終點で下車します。外宮前より内宮前まで自動車で約二十分間。外宮前より内宮前まで新國道御幸通を徒步で約一時間。外宮前より内宮前まで舊國道伊勢街道(古市街道)を徒步で約五十分間。
			内宮參拜	内宮參拜 一時間
			神樂奉奏	神樂奉奏 三十分钟
			月讀宮參拜	月讀宮參拜 十五分
			倭姬宮參拜	倭姬宮參拜 十五分

外宮前より内宮行電車に乗り内宮前終點で下車します。外宮前より内宮前まで自動車で約二十分間。外宮前より内宮前まで新國道御幸通を徒步で約一時間。外宮前より内宮前まで舊國道伊勢街道(古市街道)を徒步で約五十分間。

外宮前より内宮行電車に乗り内宮前終點で下車します。外宮前より内宮前まで自動車で約二十分間。外宮前より内宮前まで新國道御幸通を徒步で約一時間。外宮前より内宮前まで舊國道伊勢街道(古市街道)を徒步で約五十分間。

宇治橋を渡り神苑を経て第一鳥居口御橋を渡り表参道を進んで正宮に参拜します。次で多賀宮、土宮、風神苑入口より第一鳥居口御橋を渡り表参道を進んで正宮に参拜します。次で多賀宮、土宮、風神苑の各別宮を拜し、元の道を歸つて外宮前に出ます。

宇治橋を渡り神苑を経て第一鳥居口御橋を渡り表参道を進んで正宮に参拜します。次で多賀宮、土宮、風神苑の各別宮を拜し、元の道を歸つて外宮前に出ます。

御神樂を奉奏せられる時は宮域内神樂殿へ申込んで下さい。奉奏時間(毎日午前八時(十一月一日より翌年三月末日まで午前九時)より午後四時まで)奉奏順位(願主到着順)。

内宮前より電車で約六分、月讀宮前乗降所で途中下車。軌道左側の森の中に御鎮座あらせられます。

月讀宮前乗降所から電車で約九分、倉田山停留所で下車。右側の小丘に御鎮座あらせられます。

神宮の御事蹟及我國史上の重大史實、古來伊勢風俗、神都の民人が神恩奉謝の至念を捧げて神宮に奉仕せらる淳朴なる郷土風等を精巧なる十三神場面のパノラマにて其實態を表現したるもの

倉田山停留所より山田驛その他へ	電車七分	倉田山停留所から山田行電車に乗り約七分で山田驛(脇線)前終點に到着下車。
徒歩十五分	徒歩十五分	字治山田驛(参急電車)へは途中、公會堂前で下車。大神宮前驛(伊勢電鐵)へは外宮前で下車の上、徒歩約二町。
備考	一、二見浦へは内宮前から電車で約三十分。朝熊山へは約一時間(楠部停留所で乗換の上、ケーブル線に據る)かかります。	
	二、参拜旅行日程を作製せらるゝ場合には宇仁館へ御照会下されば詳細に御答へ致します。	

お 土 産 案 内

お土產物として有名なるものは神代餅・赤福餅・生姜糖にして、絲印煎餅・きさらぎ等又歴史に富み美味なるものなり。其他貝細工・竹細工・剗物等手軽なお土產物も澤山ある。

小禮日記

卷四

品

眉

金

額

月日品金額

宇治橋公園

[前点終車電宮内]

園内に

神宮の御事蹟及我國史上の重大史實、古來の伊勢風俗、神都の民人が神恩奉謝の至念を捧げて神宮に奉仕せる淳朴なる郷土風等を精巧なる十三場面のパノラマによりて其實態を表現したるものなり

新伊勢名所參宮館

無料休憩所

電話九八六番

其他

千五百名を容る設備を有し湯茶の用意あり

各種伊勢土產物店、赤福出張所あり又園内に各種運動の設備を有す

登標錄

神

代

餅

國のみやげになくてはならぬ

お伊勢名物神代餅

内宮電車終点前

總本家

中村

商店

電話

六三五

九六

番

宇治橋公園

電話九八六番

中村商店出張所

鐵道省指定旅館

産業組合中央會指定旅館

仁宇館

伊勢山田驛前

宇仁館

本屋店

別館 藤前

電話二一二二四六番
特長五三八番

宇仁館前

電話一一二七三番
電話一一二六番

別館第一別館

電話二一二五二番
電話一一二五番

別館第二別館

電話五三一六番
電話五〇番

外宮様東外宮様西

電話八三四番
電話五〇番

別莊宮崎文庫

電話五六一六番
電話八四三番

東京上野驛前

電話下谷七四〇六番
電話一〇七六番

山田驛すぐ前

和洋料理

宇仁館大衆食堂

電話一〇七六番